

はしがき

日本に於ける資本主義は其発展の全時代を通じて、封建的殘存物を紛碎せずにかへて自己発展の足場として一方封建的地主と他方ブルジョアと、是等の本質的に相容れな二つの階級の、一個の絶対支配権力の矛盾性をうまゝ取りつらうつてゐる。

農民は領主的地主の横暴なる貢米制に依り其生産の半分以上を取上げられてゐる。労働者は急速なる資本主義発展の土台として、強制労働と低賃銀に依り苦しみうられてゐる。

全國的軍需インフレに依り生産企業の突發的發展、従つて資本家の不當なる搾取は眼にあらざる状態である。殊に、炭坑資本に於ては、破産的横暴である。炭坑資本の主要投資地である筑豊に於ける炭坑労働者は

其資本の発展の爲め、あまなき搾取に、計画的に其生活権を奪はれてゐる。利潤の追求に熱狂せる資本と其最底生活を守らんとする労働者との間に何時大血戦が突発するやの梅雨期の如き低氣壓は筑豊の天地にみまざりつゝある。

此度の藏内鑛業所大峯二坑及山田鑛業所山田炭坑の争議は即其前哨戦とも云ひべき。

### 藏内鑛業所大峯二坑争議

#### 一 概略

の産生地 田川郡川崎村

大峯二坑 坑主藏内若郎兵、縁働者六百、筑豊鑛業會加入

争議期間 昭和九年六月一日至同月二十四日 三日間

参加人員 十一名

争議費用 貳百貳拾七圓也